

特集—新教科書をひらく

## 新課程用教科書

# UNICORN English Expression 1 構成と特色

● 帝京科学大学教授 塩川春彦



## はじめに

いよいよ来年度の新1年生から新指導要領が実施されます。新指導要領では、「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「英語表現Ⅰ・Ⅱ」のように、科目名が大きく変わりました。それぞれの科目は、今までの科目とどこが同じで、どこが違うのか。それぞれの科目において、何が求められているのか。教え方においても、これまで自分でやってきたやり方をどのように変えなくてはいけないのか。などなど、これまで説明を受けていてもなお、疑問、戸惑い、不安を持つ先生方が多くいらっしゃるのではないかと想像しています。本稿では、新しい教科書 UNICORN English Expression 1 (以下『ユニコン英語表現1』)の内容を紹介することを通して、新科目の「英語表現Ⅰ」がどのような科目になるのか、先生方にイメージを持っていただきたいと思います。

## 「英語表現Ⅰ」の目標

新科目「英語表現Ⅰ」は、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」という点で、「コミュニケーション英語Ⅰ」など他の外国語科目と同じ目標を共有していますが、特に「情報や考えなどを伝える能力を養うために設定された」と指導要領解説で説明されています。具体的には、「与えられた話題について、即興で話す」「聞き手や目的に応じて簡潔に話す、書く」「聞いたり読んだりしたりしたこと、学んだことや経験したに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する」などが、「英語表現Ⅰ」の内容として示されています。これまでの「ライティング」「オーラル・コミュニケーション」の2科目の要素が入っていると言えます。

## UNICORN English Expression 1 の特色

指導要領で示された目標を達成するために、『ユニコン英語表現1』は、高校生が自分の身近な生活に関わることを表現できる英語力を身につけることに焦点を当てています。しかし、それは、日常生活を描写するだけにとどまらず、日常の生活の中で考えたことを適切に表現できるようになることまで含みます。これは、「英語表現Ⅰ」は多くの高校で1年生科目として教えられるであろう、との見通しに基づいています。具体的には、まず、高校生の日常生活や学校生活での様々な場面や、高校生の興味や関心のある分野を設定し、それぞれの場面の描写、そこで生じるコミュニケーション（気持ちや考えの表現、メッセージのやりとりなど）を英語でするとしたら、どのような英語表現が必要かということを学習者に学んでもらい、自ら使ってみる機会を提供する内容になっています。トピックとしては、通学、家庭生活、余暇、音楽、読書などが取り上げられています。さらに、高校生の精神的な発達段階を踏まえ、文化、科学、環境保護などのトピックを扱い、視野を広げて英語で意見を述べることに多くのページを使っています。

表現形態においては、書く活動では、日記、手紙、絵葉書、Eメール、ブログ、学校新聞など、実践的なコミュニケーション場面を設定しています。話す活動では、スピーチ、簡単なディスカッションに挑戦できるように企図しています。

## 文法や機能表現などの扱い

上記のように『ユニコン英語表現1』では、トピックベースで構成されていますが、英語の基礎力を養うこ

とが求められる高校生の学習上のニーズを考慮し、各課で、文構造や文法に焦点を当てて基本的な文法項目が学べるように言語材料を配置しています。さらに、コミュニケーションでよく使われる重要な機能表現を、機能別に各課に配置しています。

英語の基礎力の養成というと、基本的な文法の学習と定着がすぐに頭に浮かびます。それはそれでたいへん重要な要素ですが、それがすべてではありません。言語は使うことによって習得されるのです。『ユニコン英語表現 1』では、日常生活や高校生活、高校生の興味や関心に関連したトピックを取り上げ、トピックにふさわしい表現を学ぶ過程で同時に、文法や機能表現を学べるように配慮していますが、学ぶだけでなく、使って身につけることを目指しているのです。

### 読み、聴き、インプットを豊かにする

「表現」と言っても、一方的な発信にとどまるものではなく、読むこと、聴くこととの連関性が大事にされなければなりません。『ユニコン英語表現 1』では、どの課でも読む活動、聴く活動が含まれています。具体的には、読む活動としては、対話文を読み、それに基づいて日記やメモを書く、新聞やインターネット上の記事を読み、関連したトピックで自分の意見を書くなどの活動が用意されています。聴くこととしては、どの課でも導入はリスニング活動で、その課のトピック、ポイントとなる英語表現がリスニングの中で扱われるように構成しました。読む、聴くというインプットの部分を豊かにすることで、表現というアウトプットが豊かになるのです。

### 自然で汎用性のある例文

繰り返し述べてきたように、『ユニコン英語表現 1』は、高校生の日常生活や学校生活に関連した英語表現や、高校生が思ったり考えたりしそうなことを表現するのに必要な英語表現を学び、自ら使ってみる機会を提供するものです。さらに、教科書のモデル文や例文を暗記することが学習者の日常的な宿題になることは、教科書執筆者としてよく承知しています。

ですから、モデル文、例文は、必然性のある英文、内容的に自然な英文にしよう、と執筆者として肝に銘じて取り組みました。ありえない場面でのありえない状況や心情を記述した英文では、「この英語は自分の状況や考えを表現するのに使える表現だ」と学習者は思ってくれないでしょう。文の形式としては自然な表現であっても、内容的に自然でなければ、暗記するに足る汎用性のある英文にはなりません。

トピックがスポーツであれ、読書であれ、高校生であればこんな生活場面がありそうだな、高校生はこういうことを考えそうだ、学校新聞にはこんな記事が出そうだ、などということ（つまり、必然性）を一生懸命に考えながら、モデル文や例文を作り、あるいはその材料となりそうな英文素材を収集して執筆に当たりました。1つの例文を考えるために30分以上にわたって頭を悩ませることはいくらでもありました。

### パラグラフ・ライティングへの橋渡し

『ユニコン英語表現 1』では、さらに、「英語表現Ⅱ」で本格的に学ぶことになるパラグラフ・ライティングへの橋渡しの学習ができるように配慮しました。意味的な連関をもった複数の連なった文を書く、トピック・センテンスとサポートといったパラグラフ構成の基本を学ぶ、典型的なパラグラフ・パターンに触れる、といったことは、教科書の後半部で実現されています。また、基本的な文法事項を系統的に確認させたいという先生方のニーズに応えるために、本課で分散して扱った文法項目を練習問題とともに巻末に系統的にまとめました。

### おわりに

これまで述べてきたように、『ユニコン英語表現 1』は、指導要領が求めること、教育現場の現実、学習者の発達段階、学習者と先生方の両方にとっての目標や到達点の見えやすさ、などを考慮して編集・執筆されました。『ユニコン英語表現 1』をご覧になっていただければ、この新しい科目の方向性が見えてくるのではないかと信じております。